

記載要領

様式第4の二（第4条、第5条関係）

屋内タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		1 事業の概要について具体的に記入する。					
タンクの構造・設備専用造	壁	延焼のおそれのある外壁		床			
		その他の壁		出入口	(しきい高さ cm)		
	屋根		その他	2 タンク専用室の建築面積を記入する。			
建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造		階数	注 3	設置階		建築面積	m ²
		建築物の構造概要					
タンクの構造・設備 注 4	形状				常圧・加圧(kPa)	
	寸法				容量		
	材質、板厚						
	通気管	種別		数	内径又は作動圧		
					mm kPa		
	安全装置	種別		数	作動圧		
			kPa				
液量表示装置				引火防止装置	有・無		
注入口の位置	注 5			注入口付近の接地電極	注 6 有・無		
ポンプ設備の概要	注 7						
採光、照明設備	注 8			換気、排出の設備	注 9		
配管	注 10						
消火設備	注 11			警報設備	注 12		
工事請負者住所氏名	注 13						
				電話			

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

2 建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造の欄は、該当する場合のみ記入すること。

記載要領

屋内タンク貯蔵所構造設備明細書

- 注 3 「建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造」欄は、次により記入する。
- a 建築物全体が屋内タンク貯蔵所になる場合は、記入しない。
 - b 建築物の一部に設置する場合は、建物全体についての建物構造を記入する。
- 注 4 「タンクの構造・設備」欄は、次により記入する。
- a 「形状」は、タンクの形状を「角型」、「縦置円筒型」等と記入する。
 - b 「常圧・加圧」は、該当する形態を記入する。
 - c 「寸法」は、当該タンクの内寸法を「縦 mm、横 mm、高さ mm」等と記入する。
 - d 「容量」は、「実容量 リットル、空間容積 リットル(%) 容量 リットル」等と記入する。
 - e 「材質、板厚」は、タンクの材質及び板厚を「底板 mm、側板 mm、屋根板 mm」等と記入する。材質が部材により異なる場合は、底板 SS400 8mm等とする。
 - f 「通気管」は、通気管の種別、数、内径又は作動圧を記入する。
(例) フレームアレスター付大気弁 1基 KPa
 - g 「安全装置」は、安全装置の種別、数、作動圧について記入する。
 - h 「液量表示装置」は、覚知装置を「自動式液面計」等と記入する。
 - i 「引火防止装置」は、有・無に を付ける。
- 注 5 「注油口の位置」欄は、注油口の位置について「遠方注入口」(別添図面の位置)、「タンク直上」等と記入する。
- 注 6 「注入口付近の接地電極」は、有・無に を付ける。
- 注 7 「ポンプ設備の概要」欄は、ポンプ設備の種別(うず巻きポンプ、ギアポンプ等)、数、固定方法、設置位置について記入する。
- 注 8 「採光、照明設備」欄は、種別(窓、照明)、防爆構造の種別、数を記入する。
- 注 9 「換気、排出の設備」欄は、換気又は排出の別、素材、個数、引火防止網の有無等を記入する。
- 注 10 「配管」欄は、使用する配管の材質、口径、継手方法、外面防食方法を記入する。
- 注 11 「消火設備」欄は、例えば「第3種二酸化炭素消火設備(全域)」、「第5種(粉末 ABC 消火器 3 . 5 kg) × 3本」等と記入する。
- 注 12 「警報設備」欄は、例えば「加入電話」、「自動火災報知設備」等と記入する。
- 注 13 「工事請負責任者住所氏名」欄は、工事を請け負う法人の名称及び住所並びに工事責任者の氏名、電話番号を記入する。